

講義年月日 2006年11月13日(月)
講演者 加藤 好郎 氏 (慶應義塾大学国際センター事務長)
テーマ OCLCの活動とは

講義内容

・概要

1967年、コンピュータを利用して共同目録作業と相互貸借を推進し、情報の共有化と経費の削減を目的に、米国オハイオ州内大学の共同利用機関として設立された。Ohio College Library Center Kilgour Frederick G.氏が初代プレジデント。

1981年米国外へのサービスを拡大し、2006年8月時点でヨーロッパやアジアなども含め110カ国、57,000館加盟している。

・OCLC Online Union Catalog

書誌レコード約7,000万件、所蔵レコード約13億件のデータを有する世界最大の書誌DBで、図書、逐次刊行物、CD、ビデオ、インターネット情報資料の書誌情報を提供している。MARC21、UKMARCなど各国のMARCの取り込みも行なっている。

・2004年4月頃からジョイントを開始していた米国を代表する書誌ユーティリティのひとつであるRLG(The Research Libraries Group)159メンバーを2006年7月に統合したと2006年10月30日のCouncil Meetingにて発表された。書誌データベースRLINをWorldCatに統合、検索エンジンRedLightGreenもWorldCat.orgの方へ移行した。

・OCLCのサービス

1. WorldCat: 目録作業の簡素化(自館データ付加するのみ)
2. 相互貸借サービス: WorldCatの所蔵情報からOCLCILL参加館(約8,000館)とのnon-returnable,returnable servise
3. FirstSearch: 情報検索サービス、約70のデータベースがWorldCatとリンク
4. QuestionPoint: ネットワークを利用した共同レファレンスサービス
5. NetLibrary eBooks: 105,000タイトル
6. WorldCat.org: 検索エンジン、メタデータ

・今後の政策としてポイントとなるのは、分かりやすく、家から直接アクセスをしたり、プリントしたりできるツールであること、ネットワークサービスとしていくインターネット化などである。

- ・ローカルの経済組織を創造し、大きな効果をあげる
- ・目録のためのネットワークの下部構造を築き、情報を共有する

・ネットワークレベルのコレクション構築
などが、2007年度のOCLCの目標になっている。

- ・図書館サービスの展望
- ・情報、情報を加工したものを提供する

- ・コレクションそのものを管理
- ・配布するための管理
- ・社会的にコラボレーションを持つための体制

- ・消費者サービス（例えば、Google、WorldCat.org）
- ・管理者サービス
- ・ネットワーク間サービス